

1 主 題 「自己の理解と行動の調整」 3 人間関係の形成

2 主題設定の理由

- 本グループの生徒は、目的に合わせて計画を立て、いつ実行すればよいかの判断が難しい生徒〇名で構成されている。具体的な場面においては、一つ一つ順を追って考えれば、場の状況を考えられる時もあるが、複数のことを組み合わせて考えたり、学んだことを別の場面で般化したりすることは難しい。また、集中に欠け、周囲の状態変化に気が付きにくく、言動の切り替えに時間がかかる特性がある。加えて、社会性やコミュニケーション、想像力や共感性、自分の考えを変更しにくい障がいがある生徒もいる。生徒に共通していることは、なぜ失敗を繰り返すのかどこがいけなかったのか、がわからず、原因を知りたいという思いであり、克服したいという願いである。これまでの学習では、自分の苦手なことに対する対策を中心に学習を積み重ねてきた。

そこで今回は、自己理解を深めながら、一人ひとりに自分に合った活躍の場面を体験させていく。自身の特性を踏まえ、どのようなチーム貢献ができるのか、自他の弱みの補い方、あるいは強みの生かし方を考えさせ、他者と協力してひとつの目標を達成していく中で、自己理解を深めさせていく。このことは、将来、困難に出会った時、実現可能な方で、自分も社会貢献をしていけるという自信と自己実現につなげていけると考え、本主題を選定した。

ここで本主題に関する生徒の実態および自立活動との関連を〈表1〉に示す。

3 単 元 「四つ葉文具店、注文お待ちしています」

4 指導観

- 本単元は、段階的に優先順位の判断が難しくなるように設定されたミッションをチームで解決していく中で自己理解を深めることをねらいとしている。この単元では、チームで課題を遂行するために、自分の得意なことを自分の役割として行っていく。知的障がいのある生徒は、自分のことを客観的に捉え、自分の言動が周囲にどのような影響を及ぼすのか理解することが難しく、役割分担をする活動の中では、できるかどうかの判断ではなく、やりたいという気持ちを優先しがちである。そのような生徒集団で何かをやりとげる場合は、リーダーとフォロワーの役割を明確にしながらか、状況に応じて適宜役割交代させながら進めて行く必要がある。そのためには、①自分は何ができるのか知る、②できることを優先するよさを知る、③わからないときは尋ねるようになる必要がある。本単元では、一人ひとりの得意なことと苦手なことが組み合わせられたミッションに制限時間を設けて実行させ、なぜうまくいったのか、どこを工夫するべきだったのかを意識しながら試行錯誤し、繰り返し振り返りをさせる。一連の活動を通して、自己理解をして、行動を調整しようとすることや生徒によっては他者理解を深め、複数のことを組み合わせて考える力を育み日常生活へ般化しようとする力の基礎になりうると考え、本単元を設定した。

- 本単元の指導にあたっては、チームでひとつのミッションを完成させる中で、自己理解を深めることをめざしたい。そのためにまず、自分の得手不得手を知るために、ワーキングメモリ、衝動性、状況判断を確認する。ここでは、自分の得手不得手を思い出すことができるように、これまでに取り組んだ活動内容を記載したチャレンジノートを確認しながら振り返らせる。次に、大まかな仕事内容を知った後に、自分のできることを考えて自分はどの役割を担当すればいいのかチームでミッションを成功できるのか判断させる。ここでは、自分の得手不得手を意識した役割の選択ができるように、なぜその役割を選んだのか問い、発注を受け発送するまでの一連の流れを時間制限のある中で行わせる。また、実際にやってみてうまくいったところとそうでなかったところを振り返らせ、なぜうまくいったのか、あるいはうまくいかなかったのかを問い、何がよかったのか、どこは改善すべきなのかチャレンジノートに記載させる。この流れを繰り返すことで、試行錯誤しながら自己理解を深めることができるようにする。最後に、ミッションを振り返りチームで課題がうまく進むためにできる役割を考えさせる。ここでは、般化の視点をもつことができるように、チャレンジノートを確認しながらこれまでの学習の成果を確認する。

ここで本単元に関する生徒の実態および自立活動との関連を〈表2〉に示す。

〈表 1〉 本主題における生徒の実態とめざす姿（長期目標）

	生徒 A	生徒 B	生徒 C
生徒の実態			
中心課題			
長期目標			

〈表 2〉 本単元における生徒のめざす姿（短期目標）と主な指導区分

	生徒 A	生徒 B	生徒 C
短期目標			
主な指導区分			
主な手だて			

5 単元計画 (12時間)

	次	配時	学習活動・内容	手だて(○)研究に関する手だて(◎)
きづく	一	1	1 これまでの学習を振り返る。 ・苦手なことを補う方法 ・優先順位の考え方	◎ 自分の得意なことや苦手なことを思い出せるように、これまでの学習をチャレンジノートで振り返り、「得意なこと(苦手なこと)は何ですか」と問う。 【生徒の意識付け】
やってみる	二	10 本時 8/10	2 自分のできることを考えて、チームの中で自分の役割を果たすことができる。 (1) 効率よくミッションをこなせるように、自分の得意な活動は何か考える。 ・自分の得意なことを活かせる役割 ・苦手なことを意識した選択 (2) 複数の行程を同時進行する場面で自分の得意な面を活かす。 ・全体から見渡す力 ・できることとやりたいことの区別 ・冷静な行動 (3) 自分の言動のよかったところと改善すべき点を、自己理解を視点として、振り返る。 ・自己理解の変容 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">3つのミッションで(1)~(3)をそれぞれ複数回実施し、自己理解を深めていく。</div>	○ 「できること」を考慮することではなく「やりたいこと」を優先している現状に気付くことができるように、「なぜ、あなたはその役割を選びましたか。」と問う。 ○ 得意なことと苦手なことを意識して役割を選ぶことができるように、生徒の得手不得手を踏まえ、段階的に複雑になるミッションを設定する。 ◎ 自分の行動を振りかえることができるように、ミッションごとに自分の言動でうまくいったことや改善点をチャレンジノートに記録させる。 【生徒の意識付け】 ◎ 自己肯定感を高めることができるように、チャレンジノートに自己理解に関する記述をした時は、自己認識の証のスタンプをあたえる場を設ける。 【成功体験の積み重ね】
つかむ	三	1	3 ミッションを振り返り、チームで課題がうまく進むために、自分ができる役割を考える。 ・活動全体を振り返る視点 ・自分を活かす視点	◎ できるようになったことを他の活動にいかす視点をもつことができるように、チャレンジノートの記載を振り返る場面を設け、いかせる内容を問う。 【学びの軌跡の記録】

6 本時 令和3年○月○日(○)第1校時 計画 第二次ミッション3の2 北校舎にて

		生徒A	生徒B	生徒C
主眼		やりたいこととできることの違いに気付くことができる。	落ち着いて行動することの大切さに気付くことができる。	自分は指示役となって活躍できるということに気付くことができる。
評価	段階2	自分の得意なことを役割にする良さに気付いた内容を、記述をすることができたか。	衝動性に対応しながら、自ら行動することができたか。	友達に指示を出しながら活動することができたか。
	段階1	やりたいことを優先していることを教師に伝えることができたか。	衝動的に行動したことを振り返る記述をすることができたか。	友達への指示までには至らずとも、自分は指示役が適任だと気付くことができたか。

(1) 主眼と評価

(2) 準備

- ①チャレンジノート ②商品（のり・色鉛筆・はさみ・ファイル） ③納品書 ④電卓
- ⑤メッセージカード ⑥封筒 ⑦クロムブック

(3) 過程

学習活動・内容	準備	手だて（○）研究に関する手立て（◎）	形態	配時
<p>1 前時の活動を振り返りめあてと新たな活動を確認する。</p> <p>・見通しをもつよさ</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>めあて 自分を活かせる役割を考えよう</p> </div>		<p>○ 自分の得意な役割を選ぶことを確認するために、チームで取り組むときに大事なことは何かと問う。</p> <p>○ ミッションを確認する際、新たに加わる納品書の封入は自分が得意なのかどうか判断できるように封入作業のモデルを見せる。その際、作業には優先順位があり、自分の特性と合うかどうか考える手がかりになるキーワードを強調ながら説明する。</p>	一斉	10
<p>2 自分と友達の特性をより活かせる方法を考え作戦を立てる。</p> <p>・自分を活かせる方法</p>	<p>① ◎ 学んだことを活かして作戦を立てることができるように、記憶の困難性はチャレンジノートを確認すれば補えることに気付かせる。自己理解を深めながら考えることができるように「これまでで うまくいったことはどの部分でしょうか。」「なぜ、うまくいったのでしょうか。」と問う。 【生徒の意識付け】</p> <p>② ○ 担当する係を選ぶ際は、部分と全体の関係性がイメージできるように、「以前調理の学習をしたときはなぜうまくできたのでしょうか。」と問い、ロールプレイで一連の工程を確認すればいいことに気付かせる。</p> <p>③ ○ 自分の得意なことを担当することがチームでは大切なことに気付かせるように、「なぜ、その仕事を担当したのか。」「その役割は得意ですか。」と問う。また、自分に合うものがイメージができずに、役割を選ばない場合は、実際に作業工程をやってみるよう促す。 【生徒A】</p> <p>④ ○ 落ち着いた行動ができるように、ミッションの準備段階で衝動的に行動した際は「なぜそのような行動をしたのですか。」と問い内省させる。 【生徒B】</p> <p>⑤ ◎ 自分の役割を決め、チャレンジノートに記入する際は、あいまいな判断でなく、自己理解がその根拠であったことを意識できるように「なぜ、その選択をしましたか。」と問う。 【生徒の意識付け】</p>	一斉 ↓ 個	15	
<p>3 実践をする。</p> <p>・全員の活動を見渡す視点</p> <p>・自己理解のイメージと実際の相違</p>		<p>○ 自分の考えた役割が妥当であったのか判断できるように、発注から封入作業までの流れを実践する。</p> <p>○ 自分は指示ができると気付くことができるように、全体がうまくいっているか考え、うまく進んでいないときは修正する役割も担当するように促す。 【生徒C】</p>	一斉	10
<p>4 本時の活動を振り返りまとめを行う。</p> <p>・振り返りの視点</p>		<p>○ 自己の考えた役割が適切であったのか客観的に振り返ることができるように、本時で制作した納品書など実物を見せる。</p> <p>◎ 自己理解が深まるように、「ミッションはうまくできたか。」と問い、うまくいった理由もチャレンジノートに記載するように促す。その際、客観視の苦手さを軽減できるように、他者の意見も参考にしながらチャレンジノートを作成させる。 【生徒の意識付け】</p> <p>◎ 自己理解に関する正しい記述ができた際は、理解の深まりの証としてスタンプを押す。 【成功体験の積み重ね】</p>	一斉 ↓ 個	15